

世界に広がる「地域格差」を生み出したもの

●「銃・病原菌・鉄 一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎」(上・下)

ジャレド・ダイヤモンド/草思社文庫

なぜ、人類社会の歴史は、それぞれの大陸によって異なる経路をたどって発展したのだろうか？人類社会の歴史の大陸ごとの異なる展開こそ、人類史を大きく特徴づけるものであり、本書のテーマはそれを解することにある。人間社会を形成したのは、征服と疫病と殺戮の歴史である。かつての民族間の衝突は、いまなお影響をおよぼしづけている。(上巻プロローグより)



始めなかった人 194/食料生産への移行をうながしたもの 196
第7章 毒のないアーモンドのつくり方
 なぜ「栽培」を思いついたか 204/排泄場は栽培実験場 207/毒のあるアーモンドの栽培化 209/突然変異種の選択 215/栽培化された植物とされなかった植物 223/食料生産システム 226/オークが栽培化されなかった理由 231/自然淘汰と人為的な淘汰 235

第8章 リンゴのせい、インディアン

人間の問題なのか、植物の問題なのか 237/栽培化の地域差 239/肥沃三日月地帯での食料生産 244/八種の「起源作物」 251/動植物に関する知識 260/ニューギニアの食料生産 268/アメリカ東部の食料生産 275/食料生産と狩猟採集の関係 281/食料生産の開始を遅らせたもの 283

第9章 なぜシマウマは家畜にならなかったのか

アンナ・カレーニナの原則 289/大型哺乳類と小型哺乳類 291/「由緒ある家畜」 292/家畜化可能な哺乳類の地域差 296/他の地域からの家畜の受け入れ 300/家畜の初期段階としてのペット 303/すみやかな家畜化 305/繰り返し家畜化された動物 308/家畜化に失敗した動物 309/家畜化されなかった六つの理由 311/地理的分布、進化、生態系 323

第10章 大地の広がる方向と住民の運命

各大陸の地理的な広がり 326/食料生産の伝播の速度 328/西南アジアからの食料生産の広がり 336/東西方向への伝播はなぜ速かったか 341/南北方向への伝播はなぜ遅かったか 346/アメリカ大陸における農作物の伝播 348/技術・発明の伝播 352

第3部 銃・病原菌・鉄の謎 357

第11章 家畜がくれた死の贈り物
 動物由来の感染症 358/進化の産物としての病原菌 363/症状は病原菌の策略 367/流行病とその周期 371/集団病と人口密度 374/農業・都市の勃興と集団病 376/家畜と人間の共通感染症 378/病原菌の巧みな適応 380/旧大陸からやってきた病原菌 386/新大陸特有の集団感染症がなかった理由 390/ヨーロッパ人のとんでもない贈り物 393

目次(下巻)

第3部 銃・病原菌・鉄の謎(承前) 13
第12章 文字をつくった人と借りた人
 文字の誕生と発展 14/三つの戦略 17/シムール文字とマヤ文字 19/文字の伝播 29/既存文字の借用 31/インディアンが作

った文字 36/古代の文字表記 40/文字を使える人びと 46/地形と自然環境の障壁 51

第13章 発明は必要の母である

ファイストスの円盤 56/発明が用途を生む 61/誇張された「天才発明家」 65/先史時代の発明 68/受容されなかった発明 71/社会によって異なる技術の受容 74/同じ大陸で見られる技術の受容のちがひ 78/技術の伝播 84/地理上の位置の役割 88/技術は自己触媒的に発達する 92/技術における二つの大躍進 95

第14章 平等な社会から集権的な社会へ

ファウ族と宗教 103/小規模血縁集団 106/部族社会 111/首長社会 117/富の分配 122/首長社会から国家へ 126/宗教と愛国心 132/国家の形成 134/食料生産と国家 138/集権化 141/外圧と征服 145

第4部 世界に横たわる謎 155

第15章 オーストラリアとニューギニアのミステリー

オーストラリア大陸の特異性 156/オーストラリア大陸はなぜ発展しなかったのか 159/近くて遠いオーストラリアとニューギニア 164/ニューギニア高地での食料生産 171/金属器、文字、国家を持たなかったニューギニア 175/オーストラリア・アボリジニの生活様式 180/地理的孤立にとまらぬ後退 187/トレス海峡をはさんだ文化の伝達 192/ヨーロッパ人はなぜニューギニアに定住できなかったか 199/白人はなぜオーストラリアに入植できたか 204/白人入植者が持ち込んだ最終産物 207

第16章 中国はいかにして中国になったのか

中国の「中国化」 209/南方への拡散 214/東アジア文明と中国の役割 221
第17章 太平洋に広がっていった人びと
 オーストロネシア人の拡散 232/オーストロネシア語と台湾 237/画期的なカヌーの発明 243/オーストロネシア語の祖語 248/ニューギニアでの拡散 254/ラピタ式土器 258/太平洋の島々への進出 263/ヨーロッパ人の定住をさまたげたもの 268

第18章 旧世界と新世界の運命

アメリカ先住民はなぜ旧世界を征服できなかったのか 271/アメリカ先住民の食料生産 272/免疫・技術のちがひ 277/政治機構のちがひ 282/主要な発明・技術の登場 284/地理的分断の影響 290/旧世界と新世界の遭遇 304/アメリカ大陸への入植の結末 309

目次(上巻)

日本語版への序文—東アジア・太平洋域から見た人類史 3

プロローグ ニューギニア人ヤリの間いけるもの

ヤリの素朴な疑問 21/現代世界の不均衡を生み出したもの 24/この考察への反対意見 29/人種による優劣という幻想 32/人類史研究における重大な欠落 38/さまざまな学問成果を援用する 45/本書の概略について 49

第1部 勝者と敗者をめぐる謎 59

第1章 一万三〇〇〇年前のスタートライン

人類の大躍進 60/大型動物の絶滅 71/南北アメリカ大陸での展開 77/移住・順応・人口増加 89

第2章 平和の民と戦う民の分かれ道

マオリ族とモリオリ族 95/ポリネシアでの自然の実験 98/ポリネシアの島々の環境 102/ポリネシアの島々の暮らし 107/人口密度のちがひがもたらしたもの 110/環境のちがひと社会の分化 118

第3章 スペイン人とインカ帝国の激突

ピサロと皇帝アタワルパ 121/カハマルカの惨劇 124/ピサロはなぜ勝利できたか 134/銃・病原菌・鉄 147

第2部 食料生産にまつわる謎 149

第4章 食料生産と征服戦争

食料生産と植民 150/馬の家畜化と征服戦争 159/病原菌と征服戦争 161

第5章 持てるものと持たざるものの歴史

食料生産の地域差 164/食料生産の年代を推定する 167/野生種と飼育栽培種 173/一歩の差が大きな差へ 183

第6章 農耕を始めた人と始めなかった人

農耕民の登場 185/食料生産の発祥 188/時間と労力の配分 191/農耕を始めた人と

第19章 アフリカはいかにして黒人の世界になったか

アフリカ民族の多様性 315/アフリカ大陸の五つのグループ 318/アフリカの言語が教えてくれること 324/アフリカにおける食料生産 334/アフリカの農耕・牧畜の起源

341/オーストロネシア人のマダガスカル島への拡散 346/バンツー族の拡散 349/アフリカとヨーロッパの衝突 357
エビローグ 科学としての人類史
環境上の四つの要因 365/考察すべき今後の課題 371/なぜ中国ではなくヨーロッパ

パが主導権を握ったのか 373/文化の特性が果たす役割 389/歴史に影響を与える「個人」とは 392/科学としての人類史 395
訳者あとがき 405
文庫版のためのあとがき 410

第1部 勝者と敗者をめぐる謎 59

第1章 1万3000年前のスタートライン 60

人類の歴史は今から約700万年前に始まった。その頃、アフリカに生息していた類人猿がいくつかに分かれ、ひとつのグループが現在のゴリラの祖先へ、別のグループが現生人類の祖先へと進化した。700万年前に誕生した人類は最初の500万～600万年をアフリカ大陸で過ごしている。人類の歴史は約5万年前に大きく変化し始める。私が「大躍進」と呼ぶこの時代になると、形状のそろった石器が東アフリカの遺跡から出土し始める。その後すぐに、近東やヨーロッパ南東部でも同じような発展が見られるようになる。約4万年前になると、ヨーロッパ南西部でも同じような変化が起っている。「大躍進」があった時代は、われわれの祖先の居住地が飛躍的に広がった時期と合致している。それまでアフリカとユーラシアにしか住んでいなかった人類が最初にむかっただのは、当時まだ地続きであったオーストラリア大陸とニューギニアである。オーストラリア大陸に登場してまもなく、人類はニューギニアの熱帯雨林や山岳地から、オーストラリア内陸部の乾燥地帯や南東部の多湿地帯にいたるまで大陸全体に進出し、各地の環境に順応していった。オーストラリア・ニューギニアにつづいてユーラシア大陸の最寒冷地にも住みはじめている。身体的な構造が現代人と同じ人たちが居住地をシベリアまで拡大していったのは約2万年前である。初期のシベリア住民はベーリング海峡を横断してアメリカ大陸へ移動したと考えられる。最終氷河期を通じてカナダ全域を覆っていた氷床は、現生人類がアラスカからパタゴニアに移動するうえでの最後の障壁となっていたが、紀元前1万2000年ごろからその一部が融けはじめ、カナダを南北に横断する回廊が形成されたため、そこを通ることによってアラスカ住民は初めて北米大陸の大平原に移動することができた。

南北アメリカ大陸に人類が進出したことで、地球上のほぼすべての大陸と大きな島々で人類が暮らすようになった。こうして人類は、異なる時期に異なる大陸に住みはじめたが、この差が人類のその後の歴史に影響をあたえているとすれば、それにはいったいどのような意味があるのだろうか。

第2章 平和の民と戦う民の分かれ道 95

1835年11月19日、ニュージーランドの東500マイルのところにあるチャタム諸島に、銃や棍棒、斧で武装したマオリ族500人が突然、船で現れた。12月5日にはさらに400人がやってきた。彼らは「モリオリ族はもはやわれわれの奴隷であり、抵抗する者は殺す」と告げながら集落の中を歩きまわった。モリオリ族は、もめごとはおだやかな方法で解決するという伝統ののちとして、友好関係と資源の分かち合いを基本とする和平案をマオリ族に申し出ることにした。しかしマオリ族は、モリオリ族が申し出を伝える前に、大挙して彼らを襲い、数日のうちに数百人を殺し、その多くを食べてしまった。モリオリ族は小さな孤立した狩猟採集民のグループであり、たいした技術も持っていなかった。武器ももっとも簡単なものしか持っておらず、戦いにも不慣れであった。強力な指導力を持つ者もいなかったし、組織的にも統率されていなかった。一方、ニュージーランド北島から侵入してきたマオリ族は、人口の稠密なところに住んでいた農耕民で、残虐な戦闘に加わることも珍しくなかった。モリオリ族より技術面において進んでおり、武器も優れたものを持っていた。グループの統率力も強かった。

マオリ族とモリオリ族はいずれも1000年ほど前に同じ祖先から枝分かれしたポリネシア人である。現代のマオリ族は、西暦1000年頃にニュージーランドに植民したポリネシア農民の子孫である。この植民の直後、ニュージーランドのマオリ族の一部が、チャタム諸島に植民し、モリオリ族となった。マオリ族とモリオリ族は数世紀のあいだに、技術面と政治面でまったく正反対の方向に進化した。モリオリ族は狩猟採集民へと後戻りし、マオリ族は集約型の農耕民となったのである。

第3章 スペイン人とインカ帝国の激突 121

近代において人口構成をもっとも大きく変化させたのは、ヨーロッパ人による新世界の植民地化である。ヨーロッパ人が新大陸を征服した結果、アメリカ先住民の人口が激変し、部族によっては滅亡してしまった。人類は紀元前1万1000年頃、あるいはそれ以前にシベリア、ベーリング海峡、アラスカを経由してアメリカ大陸に移住し、それ以来アメリカ大陸では、その移住経路のはるか南方にいたるまで複雑な農耕社会が形成され、旧世界で誕生しつつあった複雑な社会とはまったく無関係に発展した。旧世界とアメリカ大陸に住む人びととの接触は西暦1492年にクリストファー・コロンブスがアメリカ先住民が大勢住むカリブ海諸島を「発見」したときに、突然はじまったといえる。

ヨーロッパ人とアメリカ先住民との関係におけるもっとも劇的な瞬間は1532年11月16日にスペインの征服者ピサロとインカ皇帝アタワルパがペルー北方の高地カハマルカで出会ったときである。アタワルパは、アメリカ大陸で最大かつもっとも進歩した国家の絶対君主であった。対するピサロは、ヨーロッパ最強の君主国であった神聖ローマ帝国カール5世の世界を代表していた。アタワルパには8万の兵がいたが、ピサロにはたった60人の騎兵と106

人の歩兵しかいなかった。それなのになぜ、ピサロ側がアタワルパの家臣の多くを殺し、彼を捕虜にできたのか。ピサロ側が有利だったのは、スペイン製の鉄剣などの武器を持っていたことである。鉄製の甲冑、銃器、そして馬を持っていたのもピサロ側である。それに対してアタワルパ側は、騎乗して戦場に乗り込んでいく動物を持っていなかった。武器にしても、石の棍棒、あるいは木製の棍棒で戦わなければならなかった。槌、矛、手斧、投石器、刺し子の鎧で立ちむかわなければならなかった。このように、ヨーロッパ人がアメリカ先住民や他民族と対決する際、ヨーロッパ側が圧倒的に有利な武器を持ち合わせていたことが、その結果を左右する大きな要因となった。

1526年にインカ皇帝ワイナ・カパックはパナマ・コロンビアに移住してきたスペイン人が持ち込んだ天然痘がもとで死んでいる。王位をめぐる争いがアタワルパと異母兄弟のあいだで起き、内戦に発展した。インカ帝国はこの内戦で分裂していた。ピサロはすぐにそれを察知して利用した。ピサロを成功に導いた直接の要因は、銃器・鉄製の武器・そして騎馬などにもとづく軍事技術、ユーラシアの風土病・伝染病に対する免疫を持っていたことである。

第2部 食料生産にまつわる謎 149

第5章 持てるものと持たざるものの歴史 164

人類史の大部分を占めるのは、「持てるもの」と「持たざるもの」のあいだで繰り広げられた衝突の数々である。この衝突は、対等に争われたものではなかった。つまり、人類史とは、その大部分において、農耕民として力を得た「持てるもの」が、その力を「持たざるもの」や、その力を後追的に得た者たちに対して展開してきた不平等な争いの歴史であった。独自に食料生産をはじめたケースで詳細な確証がそろっているのは、メソポタミアの肥沃三日月地帯、中国、中米、南米のアンデス地帯、合衆国東部といった5つの地域である。これらの地域のうち、南西アジア(メソポタミア)では農作物の栽培は紀元前8500年頃、家畜の飼育は紀元前8000年頃にはじまっており、もっとも古い。中国で食糧生産がはじまった年代もメソポタミアとほぼ同じくらい古い。アメリカ合衆国東部では、これらの地域より明らかに6000年ほど遅い。食料生産は、独自に開始した地域を中核としてそこから近隣の狩猟採集民のあいだに広まっていった。その過程で、中核となる地域からやってきた農耕民に近隣の狩猟採集民が侵略され、一掃されてしまうこともあった。環境的には非常に適しているのに、先史時代に農耕を発展させたり実践したりすることがなかった地域が世界には複数存在する。そうした地域の住民は、近世になるまで狩猟採集生活を営んでいた。食料生産を他の地域に先んじてはじめた人びとは、他の地域の人たちより一步先に銃器や鉄鋼製造の技術を発達させ、各種疫病に対する免疫を発達させる過程へと歩みだしたのであり、この一步の差が、持てるものと持たざるものを誕生させ、その後の歴史における両者間の絶えざる衝突につながっているのである。

第6章 農耕を始めた人と始めなかった人 185

狩猟採集生活から食料生産生活へ移行させた要因の1つは、この1万3000年のあいだに、入手可能な自然資源(とくに動物資源)が徐々に減少し、狩猟採集生活に必要な動植物の確保がしだいにむずかしくなったということである。更新世の末期には、南北アメリカ大陸の大型哺乳類の大部分が絶滅してしまっている。比較的最近の時代に野生動物が絶滅してしまった島々で起こった変化を見ると、野生動物の絶滅と食料生産の開始に因果関係を示す事例は多い。ポリネシアからニュージーランドに渡った初期の移住民が食料生産に励みだしたのは、モア鳥を絶滅させ、アザラシの数を減少させ、ポリネシア諸島域の海鳥や陸生の鳥を絶滅または減少させたのちのことだった。西暦500年頃にイースター島に移り住んだポリネシア人は野鳥やネズミイルカを食料として容易に入手できなくなった時点で初めて、移住の際に持ち込んでいた鶏を主食にくわえている。メソポタミアの肥沃三日月地帯の狩猟採集民が野生動物を家畜化するようになったのは、野生のガゼルが減少し、肉の主要供給源を失ったからだという説がある。

第2の要因は、獲物となる野生動物がいなくなり、狩猟採集がむずかしくなったまさにその時期に、栽培可能な野生種が増えたことで作物の栽培がより見返りのあるものになったことである。

第3の要因は、食料生産に必要な技術、つまり自然の実りを刈り入れ、加工し、貯蔵する技術がしだいに発達し、食料生産のノウハウとして蓄積されていったことである。

第4の要因は、人口密度の増加と食料生産の増加との関係である。食料を生産しはじめると、狩猟採集よりも1エーカーあたりの産出カロリーを高めることができ、より多くの人口を養うことが可能となり、それが人口密度の増加へとつながる傾向にある。人口密度だけをとって、更新世末期を通じて野生植物の採集加工技術が向上したおかげで、徐々にではあるが右肩上がりの傾向にあった。そして人口密度が上昇するにつれて、それに見合う食料を確保する手段として、食料の生産がますます加速されるようになったのである。

第7章 毒のないアーモンドのつくり方 204

人類による植物の栽培化の過程は、もともとなる野生の植物を育て、意識的に、あるいは知らず知らずのうちに遺伝子に変化を起こさせ、自分たちの利用しやすいものにするという継続的行為の積み重ねであると定義できる。原種と栽培種の大きさのちがいは、農耕のまさに起源までさかのぼる。エンドウは、人間による選抜を通しての栽培の結果、野生種の10倍もの重さになっている。野生の小さなエンドウを集める生活を何千年かつづける過程で、もっとも

魅力的な個体を選抜し、その種子を植えるようになったのである。

野生種と栽培種は、種子の苦みにおいても大きく異なる。野生種の多くは種子が苦く、味が悪い。有毒なものすらある。これは、動物に種子を食べられてしまわないためである。自然淘汰は、種子と果肉が味の面でそれぞれ正反対の性質を持つように作用してきた。野生のアーモンドの種子のほとんどは非常に苦い物質をふくんでいる。アミグダリンと呼ばれるこの物質は、シアン系毒物に分解する(青酸カリ)性質がある。彼らは、野生のアーモンドにたまたま発生する突然変異種を使ってアーモンドを栽培するようになった。この変種の遺伝子には、苦いあじのもとになるアミグダリンの生成をさまたげるはたらきがある。たまたま見つかった苦みのないアーモンドの木の実だけが採集され、やがて意識的に果樹園に植えられるようになったのだろう。大きさと味は、狩猟採集民が野生植物を選ぶ際のもっともわかりやすい基準であった。しかし彼らは、肉厚であるとか、種子が少ないこと、あるいは種子に油分が多いとか、繊維質が長いといったことも基準にしていた。たとえば、野生のカボチャは、種子ばかりでほとんど果肉がないが、初期の農民たちは肉厚の個体を好んで選んでいる。紀元前 4000 年頃に地中海地方で最初に栽培化されたオリーブの実は、野生のものより大きいだけでなく、油分も多い。

多くの植物は種子をばらまく仕掛けを持っている。そのため、狩猟採集民は、植物の種子を効果的に集めることができなかつた。彼らが効率よく手に入れることができたのは、そうした個体を採集しつづけた結果、種子をばらまく仕掛けを持たない個体が栽培種の原因となったのである。われわれが食べるエンドウの種子はサヤに包まれたままだが、野生のエンドウは種子をサヤからはじけさせる。この遺伝子に突然変異を起こした個体のサヤははじけない。野生の状態では、はじける個体だけが遺伝子を残せる。人間の手に入るのは、はじけることなくサヤの中に種子を宿している個体だけである。野生の小麦や大麦の種子は、穂先に実り自然にまき散らされ、地面に落ちて発芽する。突然変異を起こした個体は、穂先の実をまき散らさない。野生の状態では、このような個体の種子は、子孫を伝えたい植物にとっては致命的である。ところが、穂先からまき散らされない実ほど、人間が採集するのに好都合なものはなく、それを人間たちが持ち帰り栽培がはじまったと考えられる。

第 9 章 なぜシマウマは家畜にならなかったのか 289

大型哺乳類で 20 世紀までに家畜化されたのは、たった 14 種の草食動物にすぎない。このうち世界各地に広がり、地球規模で重要な存在となったのは、牛、羊、山羊、豚、馬の 5 種である。

人類が動物を家畜化した年代は、考古学的証拠が見つまっているものについていえば、紀元前 8000 年から紀元前 2500 年頃に集中している。これは、最終氷河期後に、定住型の農耕牧畜社会が登場してから数千年内のことである。人類の歴史を通じて、家畜化されたのは、家畜化可能と思われる陸生の大型草食動物 148 種のうちの 14 種だけである。残りの 134 種はどうして家畜化されなかったのか。実際に家畜化される野生種は、家畜となる条件をすべて満たしていなければならない。ひとつでも欠けてしまえば、その他の条件がすべてそろっていたとしても、人間による家畜化の努力は水泡に帰してしまう。

餌の問題 動物は餌として食べる動植物を 100 パーセント消化吸収するわけではない。動物の血となり肉となるのは、通常、動物が消費する餌の 10 パーセントである。つまり、餌の効率の悪い肉食哺乳類や、コアラのように餌の好き嫌いが偏りすぎているものは家畜化されていない。

成長速度の問題 成長に時間がかかりすぎる動物は、家畜化し、育てる意味があまりない。草食性で、比較的何でも食べるゴリラやゾウが家畜化されないのは、成長に時間がかかりすぎるからである。

繁殖上の問題 われわれ人間は、衆人の前でのセックスは好まない。家畜化すれば価値がありそうな動物のなかにも、人前でセックスするのを好まないものもある。動物のなかでいちばん足の速いチーターを何千年も前から家畜化しようとする試みがすべて失敗しているのは、まさにそのためである。

気性の問題 ある程度以上の大きさの哺乳類は人を殺すことができる。気性が家畜化に向いていないのが、アフリカに生息している 4 種類のシマウマである。シマウマは歳をとるにつれ、どうしようもなく気性が荒くなり危険になる。シマウマにはいったん人に噛みついたら絶対に離さないという不快な習性があり、毎年シマウマに噛みつかれて怪我をする動物監視員は、トラに噛みつかれるものよりもずっと多い。

パニックになりやすい性格の問題 神経質なタイプの動物の飼育は、当然のことながらむずかしい。彼らは囲いの中に入られるとパニック状態におちいり、ショック死してしまうか、逃げたい一心で死ぬまで柵に体当たりを繰り返すというところがある。このような傾向にある動物の例が肥沃三日月地帯で頻繁に狩猟されていたガゼルである。

序列制のある集団を形成しない問題 実際に家畜化された大型哺乳類は、どの種類も、3 つの社会性を共有している。群れをつくって集団で暮らす。集団内の個体の序列がはっきりしている。群れごとのなわばりを持たず、複数の群が生活環境を一部重複しながら共有している。序列のある集団を形成する動物は、人間が頂点に立つことで、集団の序列を引き継ぎ、動物たちを効率よく支配できるので家畜化にはうってつけの動物である。このような群れをつくって集団で暮らす動物はお互いの存在に寛容なので、まとめて飼うことができる。

第 10 章 大地の広がる方向と住民の運命 326

食糧を生産する地域は、おもに 4 つのパターンで拡大していった。ひとつは、西南アジアを起点としてそこからヨ

ヨーロッパ、エジプトと北アフリカ、中央アジア、そしてインダス渓谷へ広がっていったパターンである。アフリカのサヘル地域や西アフリカからは、東アフリカや南アフリカへ広がっていった。中国からは、熱帯東南アジア、フィリピン、インドネシア、朝鮮半島、そして日本へと広がっていった。中米からは、北アメリカ大陸へ広がっていった。これらの流れとは逆に、食料生産の起源となった地域に、よそから新しい農作物や家畜、それらを栽培飼育する技術も伝わってきている。先史時代において食料生産が伝わっていった速度や、実際に伝わった年代も、地域によって大幅に異なっている。非常に速い速度で伝わっていったのは、東西方向に伝播していったときである。食料生産は紀元前6500年頃にギリシア、キプロス、インド亜大陸にまで広がっている。その直後の紀元前6000年頃には南スペインに紀元前3500年頃には英国にまで到達している。これらの地域の人びとは、肥沃三日月地帯の人びとが食料生産をはじめたときに栽培したり飼育したりしていたのと同じ作物や家畜をいくつか使用することで、食料を自分たちの手で作りはじめている。東西方向に経度が異なっても緯度を同じくするような場所では、日の長さ(日照時間)の変化や、季節の移り変わりのタイミングに大差がない。風土病や気温や降雨量の変化、そして分布植物の種類や生態系も、よく似たパターンを示す傾向にある。動物もまた、生存環境の緯度によって異なる気候要因に適応している。

ユーラシア大陸と対照的なのが、アフリカにおける南北方向への農作物の伝播の速度の遅さである。アメリカ大陸においてもユーラシア大陸における農作物の伝播とは対照的な遅さでしか、南北方向に農作物が伝播しなかった。アメリカ大陸やアフリカ大陸が南北に長い陸地であるのに対し、ユーラシア大陸は東西に長い。人類の歴史の運命は、このちがいを軸に発展していった。

第3部 銃・病原菌・鉄の謎 357

第11章 家畜がくれた死の贈り物 358

農耕民を狩猟採集民より有利な立場にたてた条件のひとつは、食料を生産することによって、狩猟採集民よりも人口の稠密な集団を形成できたことである。農耕民は狩猟採集民よりも優れた武器や防具を持っていた。より進歩した技術を持っていた。そして、さまざまな病原菌に対する免疫を持っていた。集権的な集団を構成し文字を読み書きできるエリートたちが征服戦争を指揮することもできた。

集団感染症は、狩猟採集民や焼き畑農業の集落などではびこりつづけることができない。この種の病気がそうした少人数の集団に登場するのは、外部から持ち込まれたときである。集団感染症は、人類全体の人口が増加し人々が密集して暮らすようになってから初めて見られるようになった。こうした人口密集地は、人類史上、農業がはじまったおよそ1万年ほど前に登場し、数千年前に都市生活が始まるとともに加速度的にその数を増やしていった。人類史上よく知られている伝染病が最初に登場したのは、比較的最近のことで、天然痘が最初に登場したのは紀元前1600年頃であり、おたふく風邪は紀元前400年頃に、ハンセン病は紀元前200年頃に、ポリオは1840年に、エイズは1959年に最初の患者が確認されている。農耕生活は、平均して、狩猟採集生活の10倍から100倍の人口を支えることができる。狩猟採集民は1カ所に定住せず、ひんぱんに野営地を変え、定住生活をする農耕民のように病原菌や寄生虫の幼虫をふくむ自分たちの排泄物が近くにある環境に長い期間とどまらない。農耕民は、汚水が居住地内を流れる環境に定住していたので、感染者の排泄物と、つぎなる犠牲者が口にする飲料水を結ぶ距離も近かった。都市生活者は、農民よりさらに劣悪な衛生環境で密集して暮らしていた。

アメリカ先住民の人口は、ヨーロッパ人による新世界の征服過程において激減した。ユーラシア大陸から運ばれてきた病原菌で命を落としたアメリカ先住民は、ヨーロッパ人の銃や剣の犠牲になって戦場で命を失った者よりはるかに多かった。1519年コルテスは人口数百万人を誇り、勇猛果敢な軍隊を擁するアステカ帝国を征服するために、600人のスペイン兵士とともにメキシコの海岸に降り立った。スペイン側の勝利を決定づけたのは、1人の奴隷が1520年にメキシコにもたらした天然痘の大流行のおかげだった。この流行によってアステカ帝国の人口のほぼ半分が死亡した。アメリカ先住民は、ヨーロッパ人たちに会おうまで、ユーラシア大陸の病原菌にさらされたことがなかった。そのため、それらの病原菌に対する免疫を持っていなかった。また、遺伝的に強い抵抗力も持っていなかった。コロンブスのアメリカ大陸発見以降、200年もたたないうちに、先住民の人口は95パーセントも減少してしまったことが推定される。

旧大陸を起源とする感染症のうち、10種類以上が新大陸の人びとに感染している。しかし、新大陸からヨーロッパに伝播した致死性の感染症は梅毒を例外としておそらく1つもない。ユーラシア大陸を起源とする集団感染症の病原菌は、群居性の動物が家畜化されたときに、それらの動物が持っていた病原菌が変化して誕生したものである。ユーラシア大陸には群居性の動物が何種類も生息していた。しかし南北アメリカ大陸には、たった5種類しかいなかった。七面鳥、ラマ・アルパカ、テンジクネズミ、バリケン、犬が生息していただけである。新世界で家畜として飼われていた動物の種類が少なかったのは、家畜化の対象となるような野生動物がもともとあまり生息していなかったからである。南北アメリカ大陸では、野生の大型哺乳類の80パーセントが、およそ1万3000年前の最終氷河期の末期に絶滅してしまっている。アメリカ先住民が家畜化できた数少ない種類の動物は、牛や豚に比べると集団感染症の病原菌の祖先になるような菌を持っていない。大きな群れをつくって暮らすような動物ではない。物理的にふれあうこともほとんどない。動物から人間にうつり、人間だけがかかるようになった感染症は、旧世界と新世界の出会いに影響をあたえ、さまざまな歴史上の局面で結果を左右するような役割を演じている。

<<千の声 VOICE>>

●石川塾の遠足●11月7日(日曜) 5家族 15名で行ってきました♡♡

[逗子から片瀬江/島コース] 9:30 逗子駅～逗子海岸(桜貝収集)～披露山(動物園)～小坪(昼食:めしやっちゃん)～材木座海岸～由比ヶ浜～稲村ヶ崎(江/電)～片瀬江/島～小田急片瀬江/島駅一



次女2歳半で遠足デビュー ～止められない母の食欲～

昨年長女が入塾して以来、石川塾の遠足には度々参加させていただいており、今回は久しぶりの遠足に長女(一年生)、次女(2歳半)と参加してきました。直前まで参加を悩んでおり、悩みの種は2歳半の次女。これまでは抱っこ紐に入れて参加していたのですが、体重こそたいして増えてはいないものの、歩く、走る、逃げる。日常生活においても抱っこ紐は不要、ベビーカーにも乗ってくれない、とにかくじゃじゃ馬娘まっしぐら。そういうわけで遠足に連れて行ったとしても、とても抱っこ紐に収まってくれるなんて想像がつかず、でも私自身は参加したくてモジモジしていました。長女は長女で「翌日学校だからやめておこうかな」と、予想外の返事。しかし私の心は完全にお昼ご飯の「めしやっちゃん」に魅了されており、根拠のない自信もじわじわと増してきていました。行かないで後悔するより、とりあえず挑戦しようと思ったのが遠足の2日前。長女はその頃どんぐりや落ち葉を厚紙に貼りつけて楽しんで遊んでいたのも、「貝殻も貼りつけてみたら素敵じゃない?」と提案してみたら、「悪くないね」と賛同してくれ、次女にも「遠足って楽しいよー!海行こう!海!」と、2人をその気にさせることに成功。そして当日を迎えました。

集合場所の逗子駅までは次女を抱っこすることなく順調に。しかしいざ出発してみると、やはり次女の歩く速度が遅く、途中で私が無理矢理抱っこ紐に入れてしまいました。もうすぐ海岸というタイミングで石川先生が「自分から抱っこしてと言うまでは歩かせてあげてください」と言って下さいました。先生のその一言に、遅れてみんなに迷惑をかけてはいけなと必死だった私の肩の力がスッと抜けました。先生のお言葉に甘え、自分で歩くという次女の気持ちを中心に、ゆっくり楽しそうに一歩一歩踏みしめていくその姿が何ともいじらしく、可愛く感じられました。披露山の登り下りは途中から抱っこし、下山途中で一旦お昼寝。念願の「めしやっちゃん」を目の前にしてお目覚めに。長女は絶品の海鮮丼を注文したのに完食出来ず、そして私はかき揚げ定食に。美味しいぶりのお刺身とボリューム満点のかき揚げをいただくつもりでしたが…次女が私のかき揚げを食べる…食べる…。もしもを想定してゲソの天ぷらも頼んでいたのですが私はそちらを主にいただきました。こちらも絶品でした。お店を後にして、午後のエイエイオー!で気合いを入れ直し、いざ砂浜を目指して再出発。見えました!見えました!材木座海岸。ここからは存分に砂浜を堪能してもらおうと解き放ったら、波に引き寄せられて走る…走る…。濡れるのはちょっと～!と追いかけてながらも、目を輝かせて走り回り、砂を両手いっぱいすくっては投げ、五感をフル活用させて楽しんでいる姿を見て、嬉しく、たくましく感じました。

チャレンジして良かったです。この気持ちは去年初参加の時も、長女のキラキラした姿を見て抱いたものと同じでした。小学生は貝拾いに夢中。次女は次第にノロノロペースでそろそろ限界かな?と思っても、まだ自分で歩くといい張り、光樹先生や小学生のお姉さんに付き合ってもらい、稲村ヶ崎まであと少し…というところまで頑張って歩きました。そこからは本人の承諾を得て抱っこしました。稲村ヶ崎でのおやつ休憩では、小学生は木登りに草滑り、側転にブリッジ。ママの素晴らしい側転姿も見せてもらいました。江ノ島まではほど遠く、帰りは稲村ヶ崎から江ノ電を使うことに。石川先生とはこちらでお別れしました。長いようで短い一日でした。とても濃厚な一日で、私達母娘にとっても価値ある時間を過ごすことが出来ました。帰宅後長女は強がりかもしれませんが、まだまだ山を登りたかったと言っていました。次女は披露山で見たお猿さんが一番印象に残っている様子で、父親に「ウッキッキーいたよー!」とお猿の真似をしながら興奮気味に話していました。石川先生、光樹先生をはじめ、ご一緒させていただいた皆様、荷物を持ってくれたり、子ども達を見守ってくれたり、たくさんサポートをありがとうございました。●ノノカさん(小1)のお母さんからの VOICE■

□七人の子育て奮闘記④ ～7番目の子・四女～

四女「絵本の読み聞かせが大好き♡ ～外では恥ずかしがり屋、家ではしっかり者～」

成禾(せいか)は、石王家7番目の末っ子として誕生しました。6番目の子・聖輝(せいぎ)と同じく出産は早かったのですが、産後はとても辛かったです。さすがに「次はない」と確信しました。成禾と聖輝を除き、上の子どもたちは自分のことは自分でできるようになったので、少しは楽なのかなと思いきや、意に反してそれは大変でした。小学校のPTA役員選出のくじを息子が当てて帰宅。「ママ、学級代表になったから」と。「ガーン!!」でした。まだ出産して1か月あまりの出来事でした。5番目の子・成來(せいら)が幼稚園年少に入園するための準備や、元気すぎる聖輝の相手やらで、もうてんてこ舞いでしたが、成禾はよく寝てくれて上の子

たちのいいおもちゃになっていました。まだ3か月のとき、聖輝はかわいがっているのか、妬んでいるのか、頭を撫で撫でしてくれていると見せかけトントンに変わり、成禾の目を指でブスッとやりそうになったりと、いろいろありました。そして、しゃべり出す頃、一番初めに覚えた言葉が「バカ」でした。どこで覚えたのだろうと不思議に思っていたある日、お姉ちゃんたちが成禾に「バカ」と繰り返し教えているのを発見。もう「こらー!!」でした。なんだかんだで、成禾も無事に幼稚園へ。上の子たちに、もまれてきたから大丈夫だろうと安心していましたが、これが大間違い。入園式ではママのそばを離れず、ずっと抱っこする状態。初の園バス乗車にもママにしがみつき大泣き。聖輝はお兄ちゃんとして助けることもなく、知らん顔でバスに乗り「ぼく、あの子と関係ない」みたいな感じで着席していました(笑)。その状態が1週間続き、やっと園バスにも慣れ、笑顔でのってくれるようになりましたが、園での様子を先生にお聞きすると、輪に入れなくて端っこの方で、もじもじちゃんになっているとのこと。先生も一生懸命見てくださり、何とか一学期が終わり、長い夏休みの後二学期に入り、また同じ状況が繰り返されました。この子は上の子たちと真逆だなと思ながらも強くなってもらわなくてはと、私も気丈に接しました。今では「幼稚園たのちい」と帰りの園バスから降りてすぐと言うので、よかった、よかったと胸をなでおろしています。そして、上の子たちがやっていることをよく観察し、何かあったらママに報告(告げ口?)してくれる、しっかり者です。朝、幼稚園のバス停まで歩く時、聖輝が先に走っていく姿を見て、ママと手をつなぎながら成禾は首を横に振り「あいつな」とあきれるように言うのです。「え?今、成禾が言ったの?」と驚きました。もう、お姉ちゃん目線ですね(笑)。幼稚園に入る前から石川塾幼児クラスに通いました。初めは恥ずかしがり屋で、なかなか成果があがりませんでした。ミツキ先生のご指導で、楽しみながら学ぶことができるようになり、今に至っています。家では絵本が大好きで、「これ読んで」と何冊も持ってきて読まされます。内容と違いますが、一人で絵本を開き、声を出して読んでいます。姿も見られます。どのように成長するのか楽しみです。●セイカさん(年少)のお母さんからの VOICE■

□2023年志望校合格を目指して ~生物部のある私立中学男子校受験の記②~

石川塾で中学受験勉強を開始!

5月末で大手進学塾を退塾し、6月から石川塾1本で受験勉強をスタートしました。「新平が楽しめる学習スケジュールを。」と石川先生が提案してくださったカリキュラムは受験に向けての基礎作りプラス生物を学ぶ時間が組み込まれており、とても魅力的な内容でした。月曜日~金曜日塾で毎日2時間勉強することになったのですが、足取り重く通う日もあった以前とは違い、元気に「いってきます!」と家を出ていく姿や帰宅後に学んだことを嬉しそうに話してくれる姿が増えました。学校の友達と一緒に身体を動かしてリフレッシュしてから塾へ行くことができるようになり、ストレスからくる「チック症」は6月中旬頃には治まりました。その証拠に6月から現在まで台風で一度だけ塾をお休みしましたがそれ以外では一度も塾を休むことなく通塾しています。ですが、解放された反動でのびのびしすぎている時期もありました。終わった後に塾にある漫画を読み漁り帰宅が遅くなることや放課後に友達と夢中になって遊び過ぎて塾の時間に間に合わないこともしばしばありました。家庭でも何度も話し合い、毎回約束を決めますがなかなか守ることが出来ず、落胆しました。

息子に合わせた柔軟なカリキュラム

現在まで息子の状況に合わせて何度かカリキュラムを変更していただきました。学習状況、理解度、家庭学習の状況、志望校の入試問題の傾向、あらゆる角度から息子に合った学習方法の提案をさせていただいています。現在のカリキュラムは模試の結果を踏まえて、弱点強化を塾で、その他を家庭で学んでいます。国語「要旨要約5冊」、算数「計算」「マルチ計算」「実況中継」「立体図形」「円」「100マス計算」、社会「ウイニングステップ」「メモリーcheck」、理科「ウイニングステップ」「メモリーcheck」他にも文章検定、漢字検定、数学検定などを学習しています。中には難しすぎるのではと思うようなテキストもありましたが、石川先生が厳選されたテキストという信頼もあり、息子の様子を見守ることにしました。始めのうちは苦戦していましたが、段々となれてきて「分かった!」「出来た!」と言う事が増えています。中でも「読む力」は伸びてきています。息子も自信がついてきて要旨要約の課題は特に積極的に取り組んでいます。

親としての葛藤と忍耐

息子がやりたいと言い出した中学受験のために自分の時間を削り勉強をみたり、学習スケジュールの管理をしたり、情報収集をしたり。日中仕事をしているので帰宅後、家事をしながら時間を工面することは思っていた以上に大変です。学年が上がると学習範囲も広がるので学ぶ量が増えます。一日の計画の中で何が出来ていてどこが出来なかったのか。どこまで理解してどこを復習する必要があるのか…しっかりとスケジュール管理をしないと学習内容に偏りがでてしまいます。こちらもルーチン化するまではかなり負担に感じていました。また、いつも調子よく机に向かって勉強をするわけではないので、やる気を出すためには今日は何と声をかけたらいいいものか…と考えることもよくあります。私もいつも懐広くいられたら良いのですが、いい加減にしろ!と思うこともあり、ドカンと爆発してしまいます。息子も爆発は避けたいらしく最近では爆破直前を察するようになり、なかなか勉強しなかったのにさっと机に向かっていくことも。だったら初めから勉強してくれよ…とその姿にも苛々することもあります。精神面、時間、金銭面…全力でサポートしている今の状況が息子の勉強に対する姿勢と釣り合っていないように思えて精神的にも肉体的にも疲れてしまい、全てを白紙に戻してしまいたいという気持ちになることもあります。しかし、一刻の感情で物事を決めてしまうことはいけないと言い聞かせ、気持ちがりセットするまでグッと忍耐です。息子は私よりも気持ちのリセットが上手です。私のリセットが遅く、息子がケロッとしているともうちょっと反省の色を出したら良いのに…とってしまうこともあります。どうしても辛いときは同じ受験生を持つママ友と色々話します。話す必ず葛藤は消え、

<<千の声 VOICE>>

心が軽くなるのです。心の内を何でも話せる友人がいてくれることは、私にとってとても大きな財産です。ママも感情を上手く吐き出して、リセットしてから子どもと向き合う。我が家もまだまだお互いに感情がぶつかることがあります、"子育ては親育て"。ともに成長するよい機会と捉えています。

結果よりも過程

私たち夫婦が息子と受験について話すときにいつも話すことは、受験が終わった後、出来ることは全てやり遂げたと胸を張って言えること。受験が終わる1年3か月後にそう言えたらいいね。と話しています。私もそうですが、自分が精いっぱいやり遂げた後は例え結果が自分の望んでいるものではなかったとしてもどのような結果でも受け入れることができますが、消化不良ほど後味の悪いものはありません。そのような状態は私たちではなく息子自身が傷つくでしょう。志望校に合格することを目指して、そのために全力を尽くしますが、全力を尽くしているのなら結果はどうでもよいと思っています。(息子にはそこまで言っていません。今の時期には言うてはいけない言葉ですね(笑))

自分の目標のために取捨選択する…その訓練として中学受験は成長できるいい機会だと考えています。

最終的な決定

感染者数が落ち着き、多くの学校で見学会が再開しています。とはいってもコロナ前と違い、限られた日数、限られた枠での見学会。5年生以下対象となると更に枠は縮小されています。見学会は毎回一秒を競う争奪戦がネット上で繰り広げられています。今年中に2校の見学会へ行きますが、1校は職場のトイレの中で、もう1校は真夜中の予約開始と同時に予約を取ることができました。

息子の第一志望は進学校色が強く、学習進度が早い私立の中学校です。部活動に魅かれ志望しています。当初私たちも私学受験しか考えていなかったのですが、都立中高一貫校の見学へ行ったところ、息子は恵まれた環境(広い校庭と体育館)と独自の行事そして校長先生のお話を聞き、とても魅かれたようです。ネット上で学校を探していた時は、第一志望校がいいと言って他にはあまり興味を示さなかったのですが、実際に訪問するとまた違った印象をもつようです。

これからの情勢によっては、いつ緊急事態宣言が発令するか分からない状況です。チャンス到来の今、色々な学校を見学し最終決定していきたいと思います。石川塾長と光樹先生にご指導いただき志望校決定後、合格に向けてギアをあげていきます!頑張れ、息子! ●シンペイ君(小5)のお母さんからの VOICE■(次号へ続く)

●DIYワークショップ●12月11日(土曜) 12日(日曜)

塾生のタイセイ君のお父さんを中心に石川塾の本棚づくり第4弾を開催♡11日は7名、12日は5名で塾長のデスク側壁一面に本棚を作成しました♡♡塾長選りすぐりの本でいっぱいになる予定です♡♡

<before>



<after>



■今回は、先生にとって物理的にも視覚的にも一番「身近」な本棚ですのでこれまで以上に変化を感じられているのではないのでしょうか。お気に入りの本が手の届く位置や目に入る位置にあると少し心強くなる気がしますし、読んだことのある本が綺麗に並んでいると頭の中も整理された気がします。(必要な情報へのアクセスのし易さはとても重要かつ大切だと考えます)これまで制作にご協力頂きました皆様大変ありがとうございました。皆様のおかげでスムーズかつ楽しく棚作りが出来ました。また塾生や親御さん方、先生方にとって使いやすい環境にして頂けたのではないのでしょうか。これで“完成”ではなく、今後更に使い勝手を良くするためにも不具合点・改善案などあればどうぞご意見いただければと思います。(先生方や塾生皆様のご意見が反映できれば更なる進化に繋がります故)

発案者(設計施工)宮井博信さん

■これまでたくさんの本棚製作の発案者(設計施工)宮井博信さん京実さん御夫妻をはじめ、常に先頭に立ち切り開いていく光樹さん、手伝っていただいた方—第1回目の古瀬さん夫妻、2回目以降お母さん方の由華さん京子さん成美さん、お父さん方の石王聖太さん飯田朗さん、高校生の花音ちゃん(スタッフ講師)と一輝くん、幼稚園生だった大誠くん万里くん、小学生の莉帆ちゃん真帆ちゃん姉妹に成愛ちゃん、4回目に山田美代子さん差入れのパウンドケーキありがとうございます。みなさんみんなありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。

読み書き算数塾 塾長 石川剛

『世界のともだち イギリス』 23

“元気にジャンプ！ブルーベル”

写真・文 加瀬健太郎/偕成社



ブルーベルはロンドン近くのヒッチンという街にすらすら10才の女の子。お父さん、お母さん、それに弟の4人家族です。お父さんは、ロンドンの仕立て屋さんで背広を作る仕事をしています。手芸がとくいなお母さんは、クッションなどを作って、知り合いのお店においてもらっています。1才下の弟、アーチャーとは大の仲良しで、いつもふたりではしゃぎまわっています。ブルーベルはたいそうやかけっこ、ダンスが大好きです。家でも外でも、ぴよんぴよんと飛び回ります。そんな活発なブルーベルですが、手芸の時や絵を描くときは、しずかに集中しています。とにかくかわいいものを作るのが大好きで、将来の夢はヘアメイクアーティストになること。家にある人形や友達の髪をあんで練習したり、iPadでメイクの腕をみがいたりしています。ブルーベルは3才のころまでロンドンに住んでいましたが、緑が多くて環境がよく、小学校の評判もいいヒッチンに引っこしてきました。イギリスでは家をたてかえることはあまりなく、中古の家を買って、自分たちの好みにあわせて改装することがほとんどです。今の家は、大工仕事のとくいなお父さんが、お母さんと相

談しながらすしずつつ直していったそうです。朝7時半、ブルーベルがおきると、お母さんはまだねていました。お父さんはもう仕事にいった後です。弟にシリアル朝ごはんを作ってあげて、ふたりで食べます。学校は家の目の前です。学校は朝8時半からはじまります。この日は全校集会の時間に、ごみをつかって服を作るリサイクルファッションショーがあり、ブルーベルはちょうの服を作って優勝しました。お昼ごはんとお昼休みが、がいちばん好きな時間です。ブルーベルは、バレエ、陸上、学校の手芸クラブ、週末はピアノとたくさんの習い事をしていて、全部大好きで楽しんでいるようです。この日はロンドンにあるお父さんの職場を見学にいきました。お父さんがはたらくのは、「仕立て屋」といって、お客さんの体に合わせて、1着ずつ手づくりで背広やコートなどを作るお店です。いろいろな国の王室の人、政治家や著名人、日本の皇族もここで背広を作ったことがあるそうです。今日見学して、おとうさんはやっぱりかっこいいなと思いました。週末は、お父さんとお母さんがアスレチックや動物園、フェスティバルなど色々なところにつれていってくれます。その中でもブルーベルが大好きなのは、家から車で30分ぐらいのところにある森で自転車にのることです。森はとても大きいので、地図で確認しながら、お父さんを先頭に木々のあいだを自転車で走っていくのですが、道がデコボコしていてかなりスリリング。帰りの車のなかでは、ブルーベルも弟も遊びつかれて、お母さんのひざの上にかさなるようにねてしまいました。お父さん、お母さんはブルーベルにはやさしい人になってくれれば、それがいいと言っていました。活発でおしゃれが大好きお友達の日常がえがかれています。(要約：K.M.)

『世界のともだち トルコ』 24

“エブラールの楽しいペンション”

写真・文 林典子/偕成社



世界遺産に登録されているサフランボル旧市街。この町の伝統的な家でくらす10才のエブラールは、両親、お姉ちゃん、お兄ちゃんの5人家族です。お父さんは自宅から80kmはなれた町で、住宅設備を整える職人として働いていて、家にはときどき帰ってきます。エブラールの家の1階は家族がくらすスペースで、2階はお母さんが2年前にひらいたペンションです。お母さんは宿泊客のために朝ごはんの準備やそうじ、買い物などでいそがしく、休むひまもありません。ペンションの名前はトルコ語で「わたしの家」。お客さんに自分の家だと思ってすごしてほしいという願いから名付けました。毎日お母さんの仕事ぶりを見ているせい、エブラールはとても気のきく女の子。素足で歩いているお客さんの足元にさっとスリッパをおくことも、あたりまえのように行きます。家族全員がそろった週末。この日は遅めの朝ごはんをバルコニーで食べました。食事のあとは全員で祈りをささげます。イスラム教徒のエブラールは、豚肉を食べません。イスラムの暦で9番目を意味する「ラマダン」月の1か月間は断食をします。エブラールも9才の時に自分の判断

で、断食することを決めました。日没までのあいだ、食べ物や飲みものをいっさい口にしません。おなかがすまですが、神のめぐみに感謝するために大切な時間だと話していました。学校がある日、エブラールは8時くらいに起き、ぬいぐるみのトニーにキスをして1日がはじまります。学校までは歩いて10分、ひとりで登校します。月曜日と金曜日は校舎の前で全校生徒が国家をうたい、国旗掲揚をします。給食がないので、12時半から1時間、それぞれ家に帰ってお昼ごはんを食べます。その後、午後の授業が始まります。学校が終わると、「ケサム」という無料の文化学校に通います。ここでは、3時から6時まで、授業の復習や宿題、歌、ゲーム、スポーツ、おどりをしたり、買い物の実習など、社会勉強をすることもできます。必ず行かなくてはならないわけではないので、気がむいたときに行くそうです。エブラールが好きなことは歩くこと。学校が休みのときは、大好きなぬいぐるみのリュックをしょって散歩にでかけます。ある日、家族といっしょにサフランボルの郊外へピクニックにでかけました。サフランボルの大部分は森で、緑がとてもゆたか。洞くつや小川、滝、溪谷が身近にあり、週末や放課後など時間をみつけると家族でよく訪れます。楽しそうに遊ぶエブラールのようなすを、お母さんはほほえみながら見つめ「将来、エブラールには人々の役に立つお医者さんになる、という夢をかなえてほしいと願っています」と言っていました。言葉は通じなくても、ペンションを訪れる世界中のお客さんたちとも自然に仲よくなれるエブラール。きっとまわりの人たちを幸せにしてあげられる、すてきな女性になると思います。ゆたかな自然にかこまれた石畳(いしだたみ)の町で、のびのびとくらすお友達の日常をぜひのぞいてみてください。

(要約：K.M.)

●石川塾の詩・和歌・俳句・川柳講座●

○歳時記〔春・夏・秋・冬〕で季語を見つけ俳句を作る人気講座♡○
○入選作品紹介♡ゼミ通信掲載作品は1句10ポイント進呈♡○

【夏】2021年

皐月(さつき):5月

令和3年5月10日

- ☆てんとう虫赤黒ぼうしかぶってる (小4) 茉莉花
- ☆てんとう虫羽広げ飛び立つよ (小4) 茉莉花

令和3年5月17日

- ☆初夏の道人なみ白くころもがえ (小4) 茉莉花
- ☆ころもがえそでがなくなりすずしげだ (小4) 茉莉花
- ☆さわやかに衣替えし夏始まる (小4) 茉莉花

令和3年5月24日

- ☆衣替え白波つくる夏ぼうし (小4) 茉莉花
- ☆家の中雷鳴ってあーこわい (小4) 茉莉花
- ☆早い朝雷鳴れば目覚まし時計 (小4) 茉莉花
- ☆いえのなかかみなりなるとび上がる (小4) 茉莉花

令和3年5月31日

- ☆ラムネびん波うちぎわできらきらと (小4) 茉莉花
- ☆しゅわしゅわとラムネびんすずしげだ (小4) 茉莉花
- ☆ラムネびんきれいな水色夏の空 (小4) 茉莉花
- ☆ラムネびん夕日にかざしむらさきに (小4) 茉莉花

水無月(みなづき):6月

令和3年6月14日

- ☆びんのなかサイダーあわ立つしゅわしゅわ (小4) 茉莉花
- ☆サイダーあわ立ちはじめるうすみどり (小4) 茉莉花



<川で遊ぶ子ども>



- ☆サイダーやなつのはっばうすみどり (小4) 茉莉花

- ☆夏の空ひかりかがやくサイダーよ (小4) 茉莉花

令和3年6月21日

- ☆あじさいの雨にぬれる映えすがた (小4) 茉莉花
- ☆あじさいの葉に雨重なる力もち (小4) 茉莉花

令和3年6月28日

- ☆雨上がり空の宝石虹が立つ (小4) 茉莉花
- ☆虹が立ち空の公園すべり台 (小4) 茉莉花
- ☆空見上げ七色の虹よい気持ち (小4) 茉莉花

文月(ふみづき):7月

令和3年7月5日

- ☆およいでる金魚はおよぐゆうゆうと (小4) 茉莉花
- ☆夏祭り元気におよぐ金魚たち (小4) 茉莉花
- ☆金魚すくいあみからにげる金魚 (小4) 茉莉花

令和3年7月12日

- ☆夏になりどこからともなく風鈴が (小4) 茉莉花
- ☆風鈴や風吹けば音鳴りにけり (小4) 茉莉花
- ☆風鈴やほのかに涼し夏の夜 (小4) 茉莉花

令和3年7月19日

- ☆夏の蝶空を飛び交い舞いあがる (小4) 茉莉花
- ☆あげは蝶空を飛ぶ宝石きれいだな (小4) 茉莉花

令和3年7月26日

- ☆浴衣着て祭りに出かける休みの夜 (小4) 茉莉花
- ☆新しき浴衣召して姫気分 (小4) 茉莉花
- ☆暑き日は家の中で浴衣がけ (小4) 茉莉花



【秋】2021年

葉月(はづき):8月

令和3年8月2日

- ☆家の前さきほころのは茉莉花 (小4) 茉莉花
- ☆良い香り蕾がいっぱいジャスミン (小4) 茉莉花
- ☆大好きなジャスミンさいて笑みこぼる (小4) 茉莉花

令和3年8月9日

- ☆蓮の花弁財天に浮かんでる (小4) 茉莉花

令和3年8月23日

- ☆江島のひかりかがやく夏の海 (小4) 茉莉花

令和3年8月30日

- ☆七夕の涼しき夜に星ながめ (小4) 茉莉花
- ☆七夕や星に願いはとどくかな (小4) 茉莉花
- ☆顔寄せて汗と母乳かおる我が子 (生後5か月) 総子
- ☆おもかげを彼か私かと探す日々 (生後5か月) 総子



長月(ながつき):9月

令和3年9月13日

- ☆栗ごはんゴロゴロ栗が入ってる (小4) 茉莉花
- ☆栗ごはんホッカホカいただきます (小4) 茉莉花
- ☆誕生日生麩田楽モチモチだ (小6) 仙人掌

令和3年9月20日

- ☆雨の日は部屋に籠り葡萄喰う (小6) 仙人掌

- ☆鳥取のじまん梨はおいしいな (小5) 乾酪

- ☆古い梨二十世紀の甘い汁 (小5) 乾酪

- ☆塾帰り空見上げれば三日月が (小4) 茉莉花

令和3年9月27日

- ☆みそ汁やっばり九月はなめこ入り (小6) 仙人掌
- ☆エリンギやベーコン入れてしよっぱいな (小6) 仙人掌
- ☆梨むくと甘い雫が地に落ちる (小5) 乾酪



- ☆名月や窓からながめかぐや姫 (小4) 茉莉花
- ☆ほっぺたをつねられ起きる深夜2時 (生後7か月) 総子
- ☆毎日が 新記録更新 移動速度 (生後7か月) 総子
- ☆小さくとも声の大きさが我が家イチ (生後7か月) 総子

神無月(かなづき): 10月

令和3年10月4日

- ☆豚肉に生姜をのせる香ばしさ (小6) 仙人掌
- ☆秋風が蟋蟀の音を届けてる (小5) 乾酪
- ☆満月の下で輝くすすきたち (小5) 乾酪
- ☆目が合うと笑み浮かべる我が子 愛しき (生後8か月) 総子



- ☆寝かしつけ子より先に親が寝る (生後8か月) 総子

令和3年10月11日

- ☆とうもろこしうまい所はやはり端 (小6) 仙人掌
- ☆下校時台風で服がびしょ濡れだ (小4) 茉莉花

【冬】2021年

霜月(しもつき): 11月

令和3年11月1日

- ☆ギンナンや臭い漂う並樹町 (小6) 仙人掌
- ☆茶碗蒸し黄色の玉は栗のよう (小6) 仙人掌
- ☆望月や見事だから団子食う (小4) 宙船
- ☆疲れて空見上げれば十五夜だ (小4) 宙船
- ☆学校の窓際の木々秋の声 (小4) 茉莉花



<薬師堂で遊ぶ>

- ☆散歩の前を風が吹く秋の声 (小4) 茉莉花

令和3年11月8日

- ☆柿食うや種を噛んだら超苦し (小6) 仙人掌
- ☆柿むくとべとべとでもうまいうまい (小6) 仙人掌
- ☆柿の木のイラガに刺され電気虫 (小4) 茉莉花
- ☆気をつける柿の木には電気虫 (小4) 茉莉花

令和3年11月15日

- ☆帆立貝おまえのよさは無限大 (小6) 仙人掌
- ☆熟す柿町中の鳥パーティーだ (小5) 乾酪
- ☆鈴虫や松虫いっしょに演奏会 (小4) 宙船
- ☆セーターよ私の大事なペアだよ (小4) 茉莉花

令和3年11月22日

- ☆炙ったらタレにつっこむホタテ貝 (小6) 仙人掌
- ☆振動と同時に重い鯨上がる (小5) 乾酪
- ☆サクサクと鯨のから揚げおいしいな (小5) 乾酪
- ☆身ぶるいしあわててセーター羽織りだす (小4) 茉莉花

令和3年11月29日

- ☆いつになるマスクなしの生活は (小4) 茉莉花
- ☆わがミカン酸っぱくたって皮をむく (小6) 仙人掌
- ☆おちばの音ひらひらとおちていく (小1) ののか

【俳号】■茉莉花(まつりか):ジャスミンの意 ■総子(ふさこ:1 児の母) ■仙人掌(サボテン) ■乾酪(かんらく):チーズの意 ■宙船(そらぶね):宇宙船の意 ■ ののか(小1の少女) ■耳口(じこう)

【植魚(うえお):イシカワ塾長】 **ポイント赤と緑ノルウェイの森** (選:光樹)

風呂場から夫婦の笑い外に漏れ

【写真:Kumi】

- ☆風強き台風の雨カサ意味なし (小4) 茉莉花
- ☆ミルク飲み「これは違う」と大号泣 (生後8か月) 総子
- ☆散歩中かわいいと言われご機嫌の母 (生後8か月) 総子
- ☆泣きながら母の後追いつレまで (生後8か月) 総子

令和3年10月18日

- ☆運動会ブリッジミスし苦笑い (小6) 仙人掌
- ☆朝仕事落葉集めでこし痛む (小6) 仙人掌
- ☆蟋蟀の音色は秋の音楽だ (小5) 乾酪
- ☆どんぐりがコロコロ坂を下ってる (小4) 茉莉花
- ☆足の裏這っては擦りむけ成長の証 (生後8か月) 総子
- ☆秋風に吹かれて我が子じっと外見る (生後8か月) 総子

令和3年10月25日

- ☆ふくらんで触るなど怒るフグたちが (小5) 乾酪
- ☆秋つばめ日本からはおさらばだ (小4) 茉莉花
- ☆飛び立つよ南の国へ秋つばめ (小4) 茉莉花
- ☆満月や月を見るより団子食う (小6) 仙人掌

- ☆鍋焼きの蓋を開けると湯気が立つ (小5) 乾酪

- ☆前屈しひよいと起きて一人座り (生後9か月) 総子

師走(しわす): 12月

令和3年12月6日

- ☆冬の星空見上げたら満天だ (小4) 宙船
- ☆草の音さらさらさらとなっている (小1) ののか
- ☆たい焼きや何ともめでたき焼き 菓子よ (小4) 茉莉花
- ☆ねる時に布団にくるまりぎょうざです (小4) 茉莉花



<塾長も遊ぶ>

- ☆雪が降る外は一面雲のよう

(日光) (小6) 仙人掌

- ☆もう一口みずから口あけおかけ待つ (生後9か月) 総子

令和3年12月13日

- ☆ああ布団よ冬乗り切る必じゅひん (小4) 茉莉花
- ☆布団干し太陽の香りただよう (小4) 茉莉花
- ☆冬の滝凍結して神秘的 (小4) 宙船
- ☆櫓に乗り坂を真っ直ぐ降りていく (小5) 乾酪
- ☆粉雪や丸沼に散って溶けていく (日光) (小6) 仙人掌
- ☆冬の朝真っ赤な耳と白い息 (中2) 耳口
- ☆口あけて米粒みたいな歯がひとつ (生後9か月) 総子

令和3年12月20日

- ☆登校中今年初のしもばしら (小4) 茉莉花
- ☆ザクザクと踏むのが好きなしもばしら (小4) 茉莉花
- ☆しもばしらザクザク鳴って愉快だな (小4) 宙船
- ☆真っ直ぐと坂を下って櫓降りる (小5) 乾酪
- ☆ホクホクと焼き芋むくと黄金色 (小6) 仙人掌
- ☆冬の空かがやく星かがやく諭吉 (中2) 耳口
- ☆暗いぶたい白いスモークおぼろ月 (中2) 耳口
- ☆冬休みお金と宿題アメとムチ (中2) 耳口

<<石川塾の肝心要 ~生きていくための要旨要約~>>

●厳選した図書で読解力・記述力を徹底的に鍛える●

中学高校大学受験生必見♡読解力・記述力はこの講座でぐんぐん伸びる♡

□最相葉月『調べてみよう、書いてみよう』講談社

■第二章 テーマを決めよう

～テーマ選びの背景にあるもの～

さて、どうやってテーマを見つければいいのでしょうか。テーマ選びの背景には、もっと知りたい、もっと聞きたい、人に伝えたい、自分の体験を記録に残したい、といった強い思いがあります。

～テーマの決め方～

想像してみてください。あなたは今、東京スカイツリーの展望台に立っています。見渡す限り、広大な景色が広がっています。あれ、橋が見えます。どれだけのお金がかかったのでしょうか。調べてみましょう。テーマとはこの広い世界の中であなたが解き明かしたい謎です。これから向かう目的地です。テーマが決まれば目的地に向かって歩き出せるのです。これは気になるな、おもしろそうだな、行ってみたいなどと思えたらそれがあなたのテーマです。

～キャッチコピーをつける～

まずキャッチコピーをつけてみましょう。なぜいきなり宣伝文が必要かということ、自分がなぜこのテーマに取り組むのか、何を知りたいのか、何を目指しているのかをはっきりさせるためです。キャッチコピーのつけ方はそんなにむずかしくはありません。最初にテーマを見つけた時に知りたい、聞きたい、体験したいと思ったことをそのまま書けばいいのです。キャッチコピーは作品の宣伝文句です。あなたがそのテーマに取り組むことになった動機や理由がよくわかる文句ほど、よいキャッチコピーといえます。

～企画書を書く～

なぜ企画書が大事かということキャッチコピーをつける時に考えたことを具体的にしておくことができるからです。企画書は見取り図であるのと同時に第三者がその作品はどんな内容なのかを想像する手がかりでもあるのです。企画の段階ではまだタイトルが決まっていなくても多いでしょう。安心してください。テーマと、選んだ理由さえはっきりしていれば大丈夫です。企画書が完成したらいよいよ行動開始です。

●リホさん(小4)の要旨要約■

■第三章 さあ、調べよう

～調べるって何?～

国語辞典の『広辞苑』によれば「調べる」という言葉には「かれこれ照らし合わせて考える」という意味があります。会いたい人や聞きたいことがまだはっきりきまらなかったひとはとくに、「誰に会いたいのか」「何を聞きたいのか」を意識しながら調べを進めるようにしてください。この中でいちばんみなさんに身近なものはインターネットかもしれませんが、ただしインターネットには危険な落とし穴があります。作品の信頼性にかかわることにもなりかねません。

～必要なもの～

調べる時に必要なものは筆記用具とノートだけです。蛍光マーカーなどがあればより便利でしょう。調べたことをノートに書いたあとで追加したい情報が出てきた場合、違う色で書き込むとあとで読み返した時にわかりやすくなるからです。ノートは自由帳でもかまいませんが、大学ノートのように罫線があるほうがきれいに書けますし、読みやすいと思います。これで準備は完了です。それではまず、調べることの基本、「本で調べる」方法から説明することにしましょう。

～本で調べる～

必要な情報を手に入れるためのスタート地点は、まず、基礎知識を得ることです。基礎知識とはそのテーマについて書く時、最初におさえておきたい基本的な事柄です。そういえば、「ももたろうとぼくのなつ」を書いた時、図書館で昆虫図鑑を借りてきてカブトムシの生態系を調べていました。書き出したり、コピーしたりする時には、出典を明記しておきます。国語辞典や百科事典で基礎知識をおさえたら、つぎはもう少しテーマに踏み込んで調べてみましょう。始めのうちは入門書を読み、徐々にレベルを上げていって専門的な本も読めるようなら挑戦してみてください。学校の図書館だけでは十分調べられないと思ったら、各県や市町村の公共図書館や特定の分野を扱っている専門図書館に足を運ぶといいでしょう。図書館には強い味方がいます。司書と呼ばれている人たちです。何を調べればいいのかわからない場合があります。そんな時に司書さんに相談すれば、キーワード検索以外の方法を教えてくれるでしょう。図書館のよいところは、開館時間内であれば何時間もいられること、本を無料で読めること、自分の疑問を解くための資料があること、たとえそこになくても、次にどこを調べればいいのか道筋を示してもらえます。

～インターネットで調べる～

最初に調べたいことの概要を把握するにはじつに便利な手段です。ただ、インターネットを利用する際に注意しておかなければならないのは、その情報が正しいかがわからないということです。インターネットの情報の質を確かめるには、発信元が一つの目安になります。なんか変だ、なんかおかしいと感じたら自分でウラをとる。情報は疑ってかかるに越したことはありません。●シンペイ君(小5)の要旨要約■

<<石川塾の肝心要 ~生きていくための要旨要約~>>

□『スラムダンクな友情論』 齋藤孝/文藝春秋

■第三章 友情は、向上心を刺激し合う関係だ

~志を同じくするから友だちだ~

この場合の「友」は、「仲がいいから友だちだ」という「仲良し友だち」ではない。同じ向学心や志があるから「友」となる、ということである。「友だちだから一緒にやる」というのも悪くはないけれど、「志が分かち合えるから友だちになる」というのは、もっとすばらしいと思う。仲間でするから面白いし、そこから志が育ってくるというのが、もっともいい関係だと思う。

~なれ合わない距離感~

この関係は、花道と流川の関係にも似ている。捨て身でボールをひろったが起き上がれない花道に、流川は「いい仕事したぜ」と声をかけるが、「下手なのに」のひとりごとををすれずにつけ加える。そのプレイで花道は体を痛め、動きがおかしくなる。その上で、「必死でついてこい」「交代しねーならよ」とあおる。スタイルは、はじめからあるんじゃないかと、相手のスタイルとのやりとりによって磨かれていくのだ。

●シンペイ君(小5)の要旨要約■

□漫画『コウノリ(1巻4話)未成年妊娠』 鈴木 ユウ/講談社

日本では年間二十万件以上の人工妊娠中絶が行われている。これは年間の出産件数のおよそ五分の一の数字だ。人工妊娠中絶が認められているのは母体保護法という法律で、母体の健康上の理由や経済的な理由、あるいは強姦などの暴力行為による場合に行うと定められている。

主人公の女性は高校生。妊娠していることが発覚した。彼女は高校生の彼氏に妊娠したことを伝え、二人で人工中絶をすることを選択した。彼女は両親に妊娠を伝えずに人工中絶をしようとした。しかし中高生を含む未成年者が中絶手術を行う場合は、パートナーの男性と両親の同意書が必要になる。さらにパートナーが未成年である場合はその両親の同意書も必要になるのだ。中期中絶は子宮の入り口を拡げて人工的に陣痛を誘発させるため、通常分娩と変わらない。また中絶が終わったあとは役所に赤ちゃんの死産届を提出し火葬許可証をもらい指定された日時に赤ちゃんを火葬しなければならない。それを踏まえた上で家族と話し合い彼女は中絶することを決意した。パートナーの男性も父親に彼女の妊娠を打ち明け、両家での話し合いが始まった。彼女の両親とパートナーの父親は中絶に同意したが、パートナーの彼氏は中絶に反対した。しかし高校生という立場で家庭を築いていくのには無理があるため仕方なく同意書にサインをした。

手術当日、彼女は精神的なショックから泣き崩れてしまい処置を中止した。彼女は赤ちゃんを産みたいと思っていたのだ。もう一度両家で話し合い、パートナーの父親と彼女の母親は赤ちゃんを産むことに賛成した。だがしかし彼女の父親は一向に賛成しなかった。中絶と向き合わないまま中絶をしてしまい精神的に病んでしまう人や、何度も中絶を繰り返す人もいる。高校生同士の出産や育児にはお互いの両親のサポートが必要となる。だからこそ彼女のお腹の赤ちゃんは家族の子供なのだ。そんな言葉を聞いた父親は彼女の出産に賛成した。

●カノン先生(高2)の要旨要約■

□記述力を身につける 20+200 字要旨要約文(齋藤孝『理想の国語教科書』青版/赤版/緑版より)

■ショウペンハウエル「思索」(齋藤孝『理想の国語教科書』第2巻赤版より)

一文要約: **ショウペンハウエルが自分の頭できっちり考えることが大事だと話す話**

本文抜粋: 自ら思索を続け、ようやく探り出した一つの真理、一つの洞察も、他人の著した本をのぞきさえすれば、みごとに完成した形でその中におさめられていたかもしれない。けれども自分の思索で獲得した真理であれば、その価値は書中の真理に百倍もまさる。つまり、自ら思索する者は自説をまず立て、後に初めてそれを保証する他人の権威ある説を学び、自説の強化に役立てるにすぎない。単なる学者の著作は、色彩もとりどりに豊かできまなくとどつてはいるが、ハーモニーを欠いた無意味な一枚の絵画版に近い。

●シンペイ君(小5)の要旨要約■

■湯川秀樹「旅人」ある物理学者の回想(齋藤孝『理想の国語教科書』第3巻緑版より)

一文要約: **昼間は勉強していてアイデアが浮かんでこないが、寝床につくと様々なアイデアが浮かんでくる話。**

本文抜粋: 私はこんな風に考え始めた。もう一息という所まで、きていたのである。しかし、昼間勉強している間には、なかなか面白い考えは浮かんでこない。計算用紙に、書き散らした数式の森の中に、私のアイデアはかすんでしまうようであった。ところが夜、寝床に入って横になると、様々なアイデアが浮かんでくる。それは数式の羅列に妨げられずに、自由に成長してゆく。その中に疲れて寝てしまう。

●ミオさん(中3)の要旨要約■

■ネルー「父が子に語る世界歴史」誕生日を祝う手紙(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約: **父ネルーが娘インディアにインドを独立させる戦士になってほしいと願う話**

本文抜粋: インド人民は、ふたたび自由となり、とき放たれるために、大きな努力と、けだかい犠牲をはらっている。われわれの偉大な解放運動には、なんの秘密も、かくしごともないのだ。そして光の中ではたらき、どんなことでもけっして秘密にしたり、あるいはこっそりしたりしないようにしましょう。さようなら、インディアさん、そしておまえがインドのために、勇敢な戦士になりますように。心からおまえの幸福を祈る。

●ユウキ君(中1)の要旨要約■

アンとアナのものがたり(成長日記)

☆アン(4年生):漢字検定6級合格♡要旨要約『調べてみよう、書いてみよう』スタート♡

【持久走の自主練を頑張る♡アンモチベーションをあげるもの♡】

漢字検定6級、毎日過去問を繰り返し間違いを練習することを続けた。結果は合格。合格することは次へのモチベーションに繋がる。何も言わなくとも次は5級を受ける!という流れで自ら勉強を開始する。6年生で漢検準2級合格を目標に漢字学習に休憩はない。『ゼツタイこれだけ!名作5年生下』と並行し、石川塾名物♡要旨要約講座を開始♡課題図書は『調べてみよう、書いてみよう』(最相葉月/講談社)でスタート。週に1章を要約し提出。こちらは1冊修了するとポイントがもらえるのでやはりモチベーションにつながる。学校で、調べ学習や研究などを行い発表する機会が多く、この本での学びがリンクするようで「次は逆立ちごまについて調べてみようかな」「企画書を作ってみようかな」と目標ができたようだ。最近、持久走に目覚めたアン。休日は朝夕数キロをランニングしている。「短距離は無理だけど、長距離は1番になる自信がある!」と体育の記録会に向け自主練をしている。トレーニングに付き合う私は、まだまだ娘に負けたくない为本気で走る。これが、彼女のモチベーションを上げるコツ!本気で付き合い、越えたい目標を作る!身長も母の私に近づいてきた。持久走も身長も追い越されるのも、もうすぐか・・・。

☆アナ(1年生):漢字検定9級リベンジ♡英語検定アセット3級受験♡算数検定10級対策♡

【落ち葉を毎日持ち帰る♡サンタさんへのお手紙をクリスマス直前まで悩むアナ…】

漢字検定9級の勉強を毎日行ったが、点数及ばず次でリベンジとなった。合格証を受け取る塾生や姉を見て、「次は合格する!」と、自ら気合を入れる。負けず嫌いが功をなす♡合格発表から過去問を2巡し130点台に突入♡問題の傾向が、取り組んでいた過去問と少し変わったので、新しい過去問を購入し、取り組みは始める。試験本番までとにかく毎日取り組んでいこう。11月に英語検定アセット3級を受検しこちらは結果を待っている。同レベルの英語検定5級の受検に向け過去問を解いている。正答率は50パーセントくらい。単語練習、熟語の確認…課題はいっぱい♡算数に関しては、3桁の足し算、引き算の練習に入った。筆算はゲームのように感じるようで意外とスムーズにできるようになった。アンときは結構苦労したっけ…(笑)かけ算に興味を示しているので、冬休みを使って、かけ算を♡それがクリア出来たら、算数検定検10級に挑戦♡紅葉の季節、学校が自然豊かなこともあり、落ち葉や、木の実を持ち帰る。辞書に挟んでは、「もうできたかな…」と押し葉を確認している(笑)まつぼっくりや、どんぐりでせっせとリースを作ったり、部屋の色々なところに飾ったりして楽しんでいる。虫が出てこないよう、こっそり夜に冷凍しておく母(笑)たまに戻す場所を忘れて、怒られる(笑)もうすぐクリスマス♡なかなかプレゼントの決まらないアナは、クリスマス直前まで悩んで、サンタさんへお手紙を書いた。サンタさんに届くといいね♡

アンとアナの本棚



『すみっコぐらし ストーリーズ: ひみつのすみっこ生活はじめました』(せきちさと/サンエックス/小学館) 『映画 すみっコぐらし 青い月夜のまほうのコ ストーリーブック』(サンエックス/主婦と生活社) 『ドラえもん一年生』(藤子・F・不二雄/小学館) 『氷の上のプリンセス ジュニア編(10)』(風野潮/講談社) 『家守神 1 妖しいやつらがひそむ家』(おおぎやなぎちか/フレーベル館) 『東京大学応援部物語』(最相葉月/新潮文庫) 『いちばんやさしい天気と気象の事典』(武田康男/永岡書店)

🌀パパ日記 坊主めくり

自分が小学生の頃はファミコンやゲームボーイで遊んでいた。一日何時間とか決められていたような気がする。今は任天堂スイッチ、さらに You tube などもあり油断すると子供たちは永遠にその渦にはまっている。時間を決めても守れないこともある。理想は自主性に任せたいが不安すぎてトライできていない。全て禁止するのも反発大で取り扱いに悪戦苦闘。皆さんはどうされていますかね?そんな中たま~にやるのが人生ゲーム。ボード型の大きなタイプでなかなか白熱。それから最近知ったのが坊主めくり。自分は40年間生きてきて初めてやったけれど単純で展開も早くそしてどこかシュール。祖父母も交えて盛り上がった。デジタル機器とは切り離せない世の中になっていますがアナログなものにも新発見があった今日この頃でした。大事にしていきたいものです。

●2歳～3歳 ホームメイド・モンテッソーリ講座

●月曜と金曜 午前10時～12時 ※親子で一緒に学ぶクラスです

子どもが自分から集中して何度も繰り返す行動をよく観察し、環境と指導を提供します。

◆教室にある24種類の教材を中心に、お子様の『敏感期』の成長を促す教材を提示♪

◆教材はご自宅でも取り組みができるよう、月に1度お母様と一緒に教材を作ります♪

◆ちょっとしたこと、気になること…子育て相談は、いつでも歓迎♪



子どもが何かを発見した時の“ニパッ♡” わかったときの“ニコッ♡”と表情が輝く時間を体験しませんか。

●未就学児 読み書き算数入門♡小学校入学準備♡

●月曜・水曜・金曜 午後3時～5時 ※親子で一緒に学ぶクラスです

具体物を使って計算♡楽しみながら、リズムよく朗読暗唱♡ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きの練習♡

◆漢字混じりの朗読暗唱文で文字に親しむ♪

◆指を手をたくさん使って計算♪かずかたち検定ゴールド♪算数検定11級♪

◆なぞって写して真似して声に出して♪ひらがな・カタカナ・漢字を練習♪

◆白川静文字学に学ぶ漢字学習で♪調べ学習の基礎を楽しく身につける♪

●小学生 国語力・算数力・受験力を鍛える♡

●月曜・水曜・金曜 1年～3年 午後3時～5時

(ミツキ先生とヒロミ先生) 4年～6年 午後5時～7時

すべての基礎は国語力♡たくさんの作品を読みます♡漢字の読み書き♡四則計算を徹底的に♡

◆国語が好きになる♡沢山の名作を読んでクイズや文章の抜き書き♡



名作を読んだらクイズに挑戦♡ページをめくって答え探し♡

●「齋藤孝のイッキによめる! 名作選 小学1年生～中学生」
全7冊(齋藤孝/講談社)

名作を読んで、好きな文章ベスト3を抜き書き♡

●「読解力がグングンのびる! 齋藤孝のゼッタイこれだけ! 名作教室 小学1年生～6年生」全10冊 (齋藤孝/朝日新聞出版)

<4年生からの月曜・水曜・金曜は中学受験・理科社会単元学習クラス>

※内容は生徒の状況により変更することがあります

◆月曜日(算数):単元ごとの副教材を作成し、問題集に取り組みます♡やさしい問題からしっかりと♡

◆水曜日(理科):『生物・生命科学大図鑑』ノートづくり講座♡調べ学習でオリジナルノートを♡

◆金曜日(社会):『漫画 サピエンス全史』のノートづくり講座♡『サピエンス全史 上下』も読みながら♡

●「小学校受験サポート」年少から・時間はご相談ください

生徒募集中! 紹介者には謝礼あり!

体験授業は3回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。

お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾

担当:7タナベミツキ

<<読み書き算数 石川塾 からのVOICE>>

◎ミツキ先生とヒロミ先生の理科社会(算数・数学)◎

◎月曜・水曜・金曜 17:00~19:00◎

◎中学受験◎高校受験◎大学受験◎

月曜:(算数)17:00~18:00(ミツキ先生)/(算数)18:00~19:00(ヒロミ先生)

水曜:(理科)17:00~18:00(ミツキ先生)/(理科)18:00~19:00(ヒロミ先生)

金曜:(社会)17:00~18:00(ミツキ先生)/(社会)18:00~19:00(ヒロミ先生)

◎看護医療系&保育教育系を目指す大学受験講座◎

石川塾の国語力を身につける講座のメソッドを活かし、看護医療系・保育教育系を目指す塾生のために選んだ図書の要旨要約で、現代文・小論文の対策をします。医療問題、少子高齢化などの社会問題、教育問題、発生学、発達心理学、脳科学、言葉の習得過程など専門分野の中でも広く深い知識を身につけることができます。

■看護医療系&保育教育系共通課題図書

●『コウノドリ』(鈴木木ユウ/講談社) ●『胎児の世界』(三木茂夫/中公新書) ●『胎児のはなし』(増崎英明・最相葉月/ミシマ社) ●『目の誕生』(アンドリュー・パーカー/草思社) ●『思考する豚』(ライアル・ワトソン/木楽舎) ●『宇宙からの帰還』(立花 隆/中公文庫) ●『選ばなかった命 出生前診断の誤診で生まれた子』(河合香織/文藝春秋) ●『せいめいのはなし~生命の神秘をめぐる~』(福岡伸一/新潮社) ●『生命の意味論』(多田富雄/新潮社) ●『ウイルスの意味論——生命の定義を超えた存在』(山内一也 /みすず書房) ●『宿命の戦記—笹川陽平、ハンセン病制圧の記録』(高山文彦/小学館) ●『銃・病原菌・鉄 1万3000年にわたる人類史の謎 上・下』(ジャッド・ダイヤモンド/草思社文庫)



お申し込み・お問合せは石川塾まで☎電話 042-710-5768

<左:5年前><5年後現在小4・小1・喜寿・高2>

□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と遊ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山海浜を歩き土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月/家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいっぱいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます ■「町田 読み書き算数塾 石川ゼミ」検索■

●スタッフ・浅沼花音からのVOICE●石川塾で働き始めた一年前は子供との接し方や勉強のサポートの仕方が分からず、子供たちと心を開き合うのに苦労したのを覚えています。ありがたいことに今では子供たちから積極的に話しかけてくれるようになりました。この一年で学んだことを活かしこれからも最善を尽くして生徒たちのサポートをしていきますのでよろしくお願いします■

●スタッフ・橋本結美からのVOICE●11月からスタッフの一員になりました。心から嬉しく思っています。また、子どもたちと一緒に学ぶ時間はとても楽しく喜びでいっぱいです！全力でサポートしていきますのでどうぞよろしくお願いします。学び続けることは自分の人生を豊かにし、周りの人々も祝福します。次世代を担う子供たち。みんなのように成長していくのか将来がとても楽しみです■

●編集長・渡邊光樹からのVOICE●歴史は、異なる人びとによって異なる経路をたどったが、それは、人びとのおかれた環境の差異によるものであって、人びとの生物学的な差異によるものではない。歴史的経路の差異は、大陸によって栽培化や家畜可能な動植物が異なっていたこと、病原菌が異なっていたこと、人びとが定住生活を開始した時期が異なっていたこと、陸塊の広がる方向が異なっていたこと、そして生態系が異なっていたことによって引き起こされた■

□ホームページの「new 体験学習ガイド」欄に(俳句と写真■写真:kumi■/幼児教室/石川ゼミ/国語専科)を掲載しています

●編集兼発行人・石川剛からのVOICE●「あなたがた白人は、たくさんのものを発達させてニューギニアに持ち込んだが、私たちニューギニア人には自分のものといえるものがほとんどない。それはなぜだろうか？」というヤリの問いかけに対する25年後の答えを自分なりに書いてみようと思ったのが本書『銃・病原菌・鉄』(特集)/持ち込んだなかに「家畜がくれた死の贈物」(第11章)いわゆる家畜化による集団感染症の～病原菌～があり感染経路がよくわかります■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2022年 新年号「千の声VOICE」第15号>令和3年12月25日発行■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く■☎042-710-5768